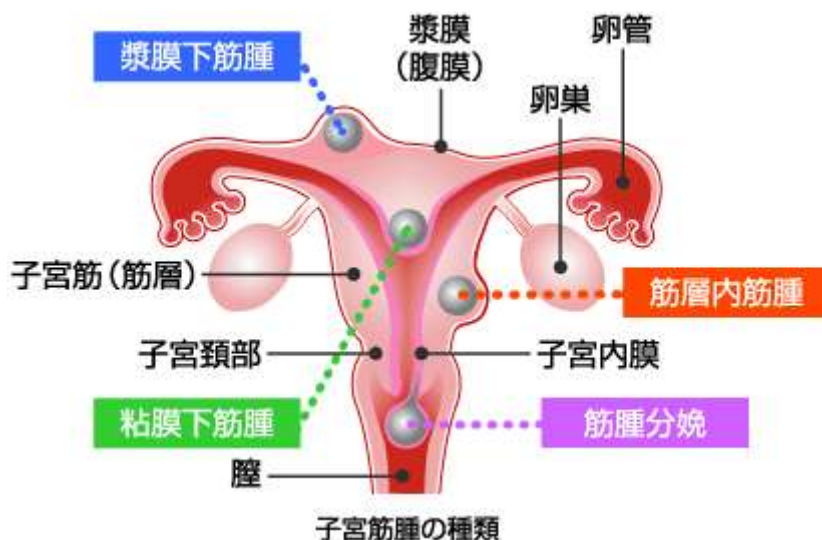


## 子宮筋腫について

### 子宮筋腫とは

子宮筋腫とは、子宮の筋肉の層のなかでできる良性の腫瘍で、筋肉の「こぶ」のようなものです。

右図のように、子宮のあらゆる場所にでき、その場所や形状によってさまざまな呼び名があります。大きさはごく小さなものから、大きいものは数十センチにまで達します。



### どんな人にできる？

子宮筋腫は、月経のある成人女性にできることがほとんどです。一般には成人女性の20～30%に筋腫があるといわれ、ごくごく小さなものまで含めればほとんどの女性にあるものではないかといわれています。

主に、30代～40代の女性に発症しますが、最近は月経の開始年齢が早まり、女性のからだの成熟がより早くなっているため、10代～20代の女性にも現れるケースが増えています。

### どんな症状がでる？

ほとんどの場合は無症状で、婦人科の検診時に見つかるなどの場合が多いですが、自覚症状としては主に下のような症状がでます。

- ・月経過多……経血の量、期間が長くなることがあります。
- ・月経痛……経血の量が増えるとともに発現しやすくなります。
- ・貧血……月経過多によって動悸、息切れなどがでることもあります。
- ・頻尿、排尿困難、腰痛、便秘、下腹部の張り感……筋腫が大きくなり、ほかの臓器を圧迫するようになる場合このような症状がでます。
- ・不妊……筋腫によって子宮の内部の壁がでこぼこになると、受精卵が子宮内に着床しづらくなり、不妊の原因となることもあります。大きな筋腫ができたまま妊娠すると痛みなどの症状がでることもあります。

## **どうして子宮筋腫になるの？**

月経が終わるとともに子宮筋腫が小さくなることから、エストロゲンという女性ホルモンが筋腫の生育に関わっているといわれてはいますが、まだはっきりと解ってはいません。

## **子宮筋腫の治療方法は？**

子宮筋腫は良性の腫瘍であり、がんになったりほかの臓器に転移したりすることはありません。したがって無症状であれば、だいたい6カ月ごとの定期健診で問題ありません。

前のページに挙げた様々な症状が日常生活に支障をきたす場合は、それらの治療を行います。

### **代表的な治療**

ホルモン療法…筋腫を小さくしたり経血の量を減らします。

鉄剤（フェロミア）…貧血症状を改善します。

鎮痛剤（ケンタン、カロナール、ブルフェン等）…月経痛を抑えます。

漢方薬…血液の汚れや血流の悪化を改善するなどします。

薬物療法で症状が改善しない場合、あるいは筋腫が著しく大きくなっている場合は手術をすることもあります。手術には筋腫のみを取り出すものと子宮をすべて取り出してしまうものがあります。妊娠を希望される場合は筋腫のみを取り出す手術が適用されますが、再発の危険性もあります。これらは患者の年齢や状況など様々なことを考慮して行われますので、主治医と一緒によく検討しましょう。

## **症状はなにもないけれど、定期健診はしなくても大丈夫？**

無症状でも本人の自覚しないうちに貧血が進行している場合もあります。

また、非常にまれな確率ではありますが、子宮筋腫ではなく悪性の「子宮肉腫」ができているなどのケースもあります。初期症状は子宮筋腫とほとんどかわらないため、子宮筋腫と誤って診断されることも多く、筋腫を手術で切除した後の検査で「実は肉腫であった」などとわかるケースもあります。

ただしこれらは組織や筋腫の大きさをみるなどで判別が可能ですので、定期健診は欠かさないようにしましょう。

また、特徴的な症状ではありませんが、不正出血や下腹部の違和感などがあれば早めに婦人科を受診するようにしましょう。

